



長島町久須見

田口 喜久子さん (51歳)

□プロフィル

飛騨市出身。一人旅が趣味で、昨年は北海道や熊本県などに足を運んだ。兄の影響で珍しい電車に興味を持つようになり、今年は九州のレトロな電車に乗ることが楽しみ。タレントの「紗栄子」が好きで、2年前栃木県で偶然遭遇し、手話で「ありがとう」と言ってもらえたことがうれしかったとほほ笑む。

デフリンピックを知っていますか?

聞こえない・聞こえにくい人のためのオリンピック。100周年を迎える記念すべき今大会が、本年11月に日本で初開催されます! 大会では、スタートを音ではなく光で知らせるなど、競技ごとに工夫がされています。また、国ごとに手話が異なるため、選手らが公用語の「国際手話」を使うところも見どころです。ぜひ観戦ください!



△田口さんの活躍はこちから／



◀聴覚障がい者支援バ
ンダナ



◀Net119
緊急通報
システム



◀市内初聴
覚障がい者の防災士

23歳の頃、結婚と出産を機に、夫の実家がある恵那市に移住。新しい環境での初めての育児は不安が大きかったが、市内の手話サークルや同両協会に入会し、新しい

日々尽力している。

田口さんは飛騨市の中学校を卒業後、親元を離れ名古屋市立学校に進学。中学生までは手話は使わず、口の動きや表情から話の内容を読み取る「口話」でコミュニケーションをとっていた。ろう学校では、同じ聴覚障がいを持つ仲間と過ごす中で自然に手話を習得し、バレーボールや音楽に打ち込みながら学校生活を過ごした。

手話に興味を持つ人が増えてほしい、今後も手話講座などを行なうことを希望する。田口さんは「言いたいことをうまく伝えられず悩んだ時期もあったが、今は自分がろう者で大切なアンデンティティだと捉え、自分を一人の人間として誇りに思っている。これからも私らしく、できることに取り組みたい」と、自らを突き動かす思いを力強く話す田口さん。

障がいはアイデンティティ 聴覚障がい者が生きやすい社会を



3/16

春の大正ロマン街を走破
大正村クロスカントリー

大正ロマンあふれる町並みと過酷な里山林間コースを楽しむことができる大正村クロスカントリー。本年は1,518人のエントリーがありました。天候が心配されていましたが、スタート時には雨も上がり、参加者らは春の大正村を楽しみながら駆け抜けました。



3/2

30年ぶりの公演
満員御礼の宮盛座

存続が危ぶまれていた三郷歌舞伎保存会が、改めて会員を募集し、宮盛座で30年ぶりの公演が実現しました。当日は260人を超える観客が詰めかけ、見どころでは「いいぞ」「日本一」の声とともに「おひねり」が次々と投げ入れられ、舞台と観客が一体となって公演を楽しみました。



3/23

SL復元を応援
あけてつ春のSLフェス

明知鉄道名誉顧問の市川紗椰さん(左)ほか、鉄道好きで知られる芸人の吉川正洋さん(右)と南田裕介さん(右)をゲストに迎え、明智駅構内でSLフェスを実施。県内外から訪れた約500人は、SL乗車体験やトークショー、グッズ販売などを思い思いに楽しみ、SLの魅力を堪能しました。



3/19

心肺蘇生を実施
協力者に感謝状を贈呈

心肺停止状態の男性に、適切な処置をして命を救ったとして、市消防本部は(株)エヌ・テック(長島町)の加藤和真さんと早川昌志さんに感謝状を贈呈しました。二人は交代しながら心臓マッサージを実施し、その後、男性は救急車で病院に搬送され、現在は社会復帰しています。



3/29

満員御礼
最後の薪能

延期されていたいわむら城址薪能が開催され、約320人が今回で最後となる薪能を堪能しました。三輪哲司実行委員長は「38回という長い間、愛していただき感謝しています」とあいさつ。子どもたちによる「謡」の合唱から始まり、仕舞や狂言、能「邯鄲」が上演されました。



3/24

長年指導者として活動
県地域スポーツ功労賞を受賞

早川恵美子さん(長島町)と樋田千史さん(大井町)、林孝治さん(長島町・当日欠席)が県地域スポーツ功労賞を受賞し、表彰伝達式を行いました。早川さんは「卓球が好きで中学1年生から続けている。これからもできる限り指導を続けていきたい」と意欲を語りました。